

窪田議員（自民議連）

令和4年9月22日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）英語教育に向けた取組について

この度の補正事業を踏まえ、英語を話す力の向上に向け、どのように展開していこうと考えているのか、また、今後、国際社会で活躍する人材を育成するために、英語教育にどのように取り組んでいくのか、併せて教育長に伺う。

（答）

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されており、学習指導要領の中でも「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語4技能を総合的に育成することが求められております。

しかしながら、義務教育終了段階で英検3級相当の英語力を有する広島県の生徒の割合は、前回より向上したものの、国の掲げる目標値の50パーセントに達しておらず、また、5年ぶりに全国平均を下回ったことを受け、とりわけ課題のある「話すこと」について、重点的に取り組むこととし、補正予算を計上させていただいたところでございます。

具体的には、来年度、中学校第3学年を対象とした英語スピーキングテストを実施し、現状を把握するとともに、課題を分析して指導改善を進めようと考えており、今年度は評価規準作成等のための予備調査を行います。

また、生徒が学校や家庭などで、スピーキングを含む英語の学習に主体的に取り組めるよう、オンライン教材を提供することとしております。

県教育委員会といたしましては、国際社会で活躍できる人材の育成に向け、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図る施策を進め、グローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力の育成に努めてまいります。

なお、高等学校入学者選抜において、「話すこと」の習得状況を測ることにつきましては、今回の補正事業における取組の成果や他県の状況等を踏まえ、研究してまいりたいと考えております。